

平成30年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	職員研修に要する経費	会計	款	項	目	多額経費
		一般	2	1	2	
政策	41計画の実現のために	担当課室	総務課			
施策	412効率的で健全な行財政運営の推進	担当課室長	武田 秀一			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	人材育成基本方針に基づき、人材育成を実現していくため、研修計画の見直しとその計画の実施を行う。	③平成30年度に取り組む改革・改善内容	人材育成基本方針に基づき、人材育成を実現していくため、研修計画の見直しとその計画の実施を行う。
②①に基づく取り組み結果	人材育成基本方針に基づき、研修計画を見直すとともに、平成29年度においては職員のセキュリティ技術に関する知識の向上を図るため、「情報セキュリティ研修」を新設した。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	全職員	意図(対象をどうするのか)	求められる職員像に必要な能力を職員が身につけている
②事務事業の概要	人材育成基本方針に基づき、人材育成のため全職員に対して、それぞれに求められる各種研修を実施し、職員の能力開発を実現する。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	各公共団体の独自性が求められる昨今においては、市民のために動ける職員、より高い目標を達成する自律型職員、組織力を活かせる職員が求められる。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成29年度の事業の成果	①平成30年度研修計画の策定 ②階層別研修・実務研修の実施 ③派遣研修・自主研修の実施						
②成果を表す指標	指標名称		平成27年度	平成28年度	平成29年度	単位	算定根拠
	i	職員数(二役、教育長を除く)	699	701	711	人	鎌ヶ谷市職員配置録
	ii	研修受講人数	1,003	1,282	1,234	人	鎌ヶ谷市職員研修概要
	iii	研修受講人数/職員数	143	183	174	%	業務取得
③事務事業のコスト	平成28年度決算	平成29年度決算	平成29年度決算(事業費)の主な内訳		平成30年度予算		
事業費(千円)	3,384	3,224	金額(千円)	内容		3,511	
	国支出金(千円)		671	階層別研修			
	県支出金(千円)		319	実務研修			
	市債その他(千円)		2,210	派遣研修			
	一般財源(千円)	3,384	3,224	20	自主研修	3,511	

IV 評価・検討

①課題	改定した人材育成基本方針に基づいた研修計画の見直しとその計画を実施していく必要がある。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	人材育成基本方針に基づき職員が必要な能力を身につけるため、研修・能力開発を実施する必要があるため。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成29年度の計画	平成29年度事業費の状況(単位:千円)					
	計画事業費	予算額		決算額		
②計画に対する事業実績	0	当初		0	H28からの繰越	
		補正			現年分	
③達成状況	流用・充当					
④未完了・非着手の理由	平成30年度への繰越額(単位:千円)					

平成30年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	旧第二学校給食センター他建物解体事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	2	1	7	○
政策	23安全に暮らせる社会システムをつくります	担当課室	契約管財課			
施策	412効率的で健全な行財政運営の推進	担当課室長	弓削 孝司			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	新規のため、なし。	③平成30年度に取組む改革・改善内容	周辺住民への影響を最小限に抑え、工事を完了させる。
②①に基づく取組み結果	新規のため、なし。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	旧第二学校給食センター他	意図(対象をどうするのか)	既存施設の解体を行う。
②事務事業の概要	旧第二学校給食センター及び旧トレーニングセンターの跡地について、浸水対策として、排水路を整備する為、建物を解体する。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	市街地で周辺住宅が近接していることから、振動、騒音、粉じんなどの影響を最小限に抑え工事を行う必要がある。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成29年度の事業の成果	周辺住民へ騒音や振動などを配慮しながら工事を進めた。また、既存施設からアスベストが検出されたことで工期を延長する必要が生じた。					
②成果を表す指標	指標名称	平成27年度	平成28年度	平成29年度	単位	算定根拠
	i 改修割合	0	0	31	%	業務取得
	ii					
	iii					
③事務事業のコスト	平成28年度決算	平成29年度決算	平成29年度決算(事業費)の主な内訳		平成30年度予算	
事業費(千円)	0	53,642	金額(千円)	内容	110,645	
国支出金(千円)			47,700	旧第二学校給食センター他建物解体工事		
県支出金(千円)			3,311	家屋事前調査業務委託(その1)		
市債その他(千円)	0	48,200			99,500	
一般財源(千円)	0	5,442			11,145	

IV 評価・検討

①課題	施設が近隣住宅に隣接しているため、慎重に工事を行う。また、アスベストの除去作業に時間を要したが、速やかに工事を完了させ、周辺住民の不安を取り除く。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価 6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い	
③上記評価の理由	工事が適正に進捗しているか確認するため。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成29年度の計画	解体工事を実施する。	平成29年度事業費の状況(単位:千円)					
		計画事業費	予算額		決算額		
②計画に対する事業実績	解体工事を完了することが出来なかった。	166,766	164,287	当初	166,766	H28からの繰越	0
				H28→29繰越	0		
③達成状況	未完了			補正	0	現年分	53,642
④未完了・非着手の理由	既存資材にアスベストが含まれていることが判明し、除去する必要が生じたため。			流用・充当	-2,479		
		平成30年度への繰越額(単位:千円)				110,645	

平成30年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	市税の徴収等に要する経費	会計	款	項	目	多額級費
		一般	2	2	1	
政策	41計画の実現のために	担当課室	収税課			
施策	412効率的で健全な行財政運営の推進	担当課室長	石井 邦男			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	研修参加や実績を重ね動産等を対象とした滞納処分の手続きにかかわる習熟度を高める。	③平成30年度に取組む改革・改善内容	滞納処分の手続きにかかる習熟度を高め、効率的な運用を図るために差押えるべき財産を選定する。
②①に基づく取組み結果	動産5件公売実施した。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	市税	意図(対象をどうするのか)	市税の確保と徴収率の向上
②事務事業の概要	市税の徴収に必要な滞納整理(督促、催告、納付相談及び滞納処分)を行う。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	納税者のライフスタイルの多様化に伴い、納税環境の整備・充実を図ることは必要不可欠となってきている。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成29年度の事業の成果	動産5件公売を実施した。						
②成果を表す指標	指標名称		平成27年度	平成28年度	平成29年度	単位	算定根拠
	i	収納額	13,263	13,376	13,611	百万円	決算
	ii	徴収率	93.4	94.1	95.0	%	決算
	iii						
③事務事業のコスト	平成28年度決算	平成29年度決算	平成29年度決算(事業費)の主な内訳		平成30年度予算		
事業費(千円)	7,915	6,915	金額(千円)	内容	16,258		
	国支出金(千円)		5,538	非常勤職員賃金			
	県支出金(千円)						
	市債その他(千円)						
	一般財源(千円)	7,915	6,915		16,258		

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	動産等の捜索・差押・公売の円滑な実施					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	さらに効果的な運用を図るために差押えるべき財産を選定する力をつける必要がある。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成29年度の計画	平成29年度事業費の状況(単位:千円)				
	計画事業費	予算額		決算額	
②計画に対する事業実績	0	当初		0	H28からの繰越
		H28⇒29繰越			
③達成状況		補正			現年分
④未完了・非着手の理由		流用・充当			
		平成30年度への繰越額(単位:千円)			

平成30年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	戸籍等データ移行事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	2	3	1	○
政策	41計画の実現のために	担当課室	市民課			
施策	412効率的で健全な行財政運営の推進	担当課室長	新城 富美江			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	無し	③平成30年度に取組む改革・改善内容	無し
②①に基づく取組み結果	無し		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	電算化された戸籍等	意図(対象をどうするのか)	データの移行
②事務事業の概要	電算化された戸籍等のデータを新たな事業者に移行する。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	電子環境及び戸籍事務の安定的な運営が必要となる。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成29年度の事業の成果	鎌ヶ谷市で管理する電算化された戸籍、同附票、除籍、同除附票(平成11年10月2日に紙戸籍を電算化)電算化現戸籍32,741件、同附票32,741件、除籍10,204件、同除票10,204件、全体85,890件、上記のデータ移行を完了させた					
②成果を表す指標	指標名称	平成28年度	平成29年度	平成30年度	単位	算定根拠
	i 本籍人口数	83,317	83,870	84,360	件	システムによる本籍人口数
	ii					
	iii					
③事務事業のコスト	平成28年度決算	平成29年度決算	平成29年度決算(事業費)の主な内訳		平成30年度予算	
事業費(千円)	0	37,985	金額(千円)	内容	0	
	国支出金(千円)		19,100	総合戸籍データ移行委託		
	県支出金(千円)		15,120	新総合戸籍データ移行委託		
	市債その他(千円)		799	戸籍住民記録データ連携システム改修委託		
	一般財源(千円)	37,985				

IV 評価・検討

①課題	データ移行後、最適な電子環境を維持するとともに戸籍事務に係る正確性を確保する必要がある。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	1終了
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	新事業者への戸籍等のデータ移行が完了し、サポート体制の充実、システムの操作性の簡素化を実現したため。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成29年度の計画	電算化された戸籍等のデータ移行	平成29年度事業費の状況(単位:千円)					
		計画事業費	予算額		決算額		
②計画に対する事業実績	戸籍等のデータ移行完了	38,769	38,769	当初	38,769	37,985	H28からの繰越
③達成状況	完了			H28→29繰越			現年分
④未完了・非着手の理由		平成30年度への繰越額(単位:千円) 0					

平成30年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	教育委員会運営に要する経費	会計	款	項	目	多額 経費
		一般	10	1	1	
政策	41計画の実現のために	担当課室	教育総務課			
施策	412効率的で健全な行財政運営の推進	担当課室長	後藤 由美			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	教育委員会の更なる活性化を図るため、学校や教育機関との意見交換の機会の場を設ける。	③平成30年度に取り組む改革・改善内容	教育委員会の更なる活性化を図るため、引き続き学校や教育機関との意見交換の機会の場を設ける。
②①に基づく取り組み結果	教育委員会定例会を学校(北部小・第四中)や学校給食センターを会場として開催するなど、学校現場との意見交換を積極的に行い、教育委員会の活性化を図った。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	教育委員会委員	意図(対象をどうするのか)	人格が高潔で、教育、学術、文化に関する識見を有する者を任命する
②事務事業の概要	定例会を開催し、鎌ヶ谷市の教育方針や教育行政にかかる議決事項を審議し決定している。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	教育委員会の大幅な教育政策の変換期にあることから、他市の動向を把握しながら、新しい教育委員会体制を確立する。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成29年度の事業の成果	生涯学習の推進、芸術・文化の振興、文化財の保存、スポーツの振興など様々な教育行政に対し、教育委員会委員による多様な民意を反映した。					
②成果を表す指標	指標名称		平成27年度	平成28年度	平成29年度	算定根拠
	i	定例会の回数	12	12	12	実施回数
	ii	臨時会の回数	7	5	7	実施回数
	iii	議決された案件	33	35	40	議決案件数
③事務事業のコスト	平成28年度決算	平成29年度決算	平成29年度決算(事業費)の主な内訳		平成30年度予算	
事業費(千円)	2,243	2,240	金額(千円)	内容	2,320	
国支出金(千円)			2,208	教育委員会委員報酬		
県支出金(千円)						
市債その他(千円)						
一般財源(千円)	2,243	2,240			2,320	

IV 評価・検討

①課題	教育に携わる者の意欲や達成感の向上を図り、鎌ヶ谷市の教育行政を推進することが課題である。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価 6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い	
③上記評価の理由	鎌ヶ谷市の教育行政の発展のため、的確な情報や学校の課題を引き続き把握する必要がある。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成29年度の計画	平成29年度事業費の状況(単位:千円)			
	計画事業費	予算額		決算額
②計画に対する事業実績	0	当初		0
		H28→29繰越		
③達成状況		補正		現年分
④未完了・非着手の理由	流用・充当			
	平成30年度への繰越額(単位:千円)			

平成30年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	旧第一学校給食センター建物解体事業	会計	款	項	目	多額 経費
		一般	10	5	3	○
政策	13人間性豊かな子どもの育成環境をつくれます	担当課室	学校教育課			
施策	412効率的で健全な行財政運営の推進	担当課室長	垣岡 俊男			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	平成28年度は事務事業評価なし	③平成30年度に取組む改革・改善内容	平成29年度に建物解体完了により平成30年度は事業なし
②①に基づく取組み結果	平成28年度は事務事業評価なし		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	旧第一学校給食センター	意図(対象をどうするのか)	跡地の有効活用事業の推進
②事務事業の概要	新給食センターの稼働により、旧第一給食センター跡地について、新たな目的に活用するため建物解体を実施する。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	活用にあたり地元の意向を確認して実施します。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成29年度の事業の成果	年度内での建物解体工事及び用地所管替えの完了。					
②成果を表す指標	指標名称	平成27年度	平成28年度	平成29年度	単位	算定根拠
	i 工事進捗率			100%	%	事業完了のため
	ii					
	iii					
③事務事業のコスト	平成28年度決算	平成29年度決算	平成29年度決算(事業費)の主な内訳		平成30年度予算	
事業費(千円)	0	82,745	金額(千円)	内容	0	
国支出金(千円)			82,745	解体工事請負費		
県支出金(千円)						
市債その他(千円)						
一般財源(千円)	0	82,745			0	

IV 評価・検討

①課題	解体工事実施に伴う調整及び解体後の管理の対応について関係各課と協議する。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	1終了
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	平成29年度に建物解体が完了したため。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成29年度の計画	跡地利活用のため建物解体工事を実施する。	平成29年度事業費の状況(単位:千円)					
		計画事業費	予算額		決算額		
②計画に対する事業実績	年度内での建物解体工事完了。	103,340	当初	103,340	82,745	H28からの繰越	
③達成状況	完了		H28→29繰越			現年分	82,745
④未完了・非着手の理由			流用・充当				
		平成30年度への繰越額(単位:千円)					

平成30年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	議会事務局の運営に要する経費	会計	款	項	目	多額 経費
		一般	1	1	1	
政策	41計画の実現のために	担当課室	議会事務局			
施策	412効率的で健全な行財政運営の推進	担当課室長	桂本 弘明			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	議員改選に伴う一連事務を円滑に実施する。また、議会活動等の透明性を確保するため、効果的な事業の展開を図っていく。	③平成30年度に取組む改革・改善内容	議会運営を円滑に進めるとともに、議会活動等の透明性を確保するため、効果的な事業の展開を図っていく。
②①に基づく取組み結果	議員改選事務が円滑に遂行され、議員改選が滞りなく行われた。また、政務活動費に係る領収書等のHPでの公開を開始した。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	市民、市議会議員	意図(対象をどうするのか)	憲法で保障された議決機関である議会の円滑な運営を行う。
②事務事業の概要	憲法で保障された議決機関である議会の円滑な運営を行うため、その事務を所掌する議会事務局の運営に要する経費。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	地方分権がより一層進む状況の中で、今後とも議会活動等の透明性の確保、内容を広く周知すること及び新たな政策提案を求められている。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成29年度の事業の成果	適切な事業計画に基づき費用対効果に十分配慮した上で、遅延することなく事業を実施することができた。						
②成果を表す指標	指標名称	平成27年度	平成28年度	平成29年度	単位	算定根拠	
	i	傍聴者数	565	460	375	人	業務取得
	ii						
	iii						
③事務事業のコスト	平成28年度決算	平成29年度決算	平成29年度決算(事業費)の主な内訳		平成30年度予算		
事業費(千円)	24,806	24,995	金額(千円)	内容	30,415		
	国支出金(千円)		4,495	会議録反訳委託			
	県支出金(千円)		1,833	議会中継システム			
	市債その他(千円)		1,190	議会だより折込委託			
	一般財源(千円)	24,806	24,995	2,854	映像設備・音響設備使用料	30,415	

IV 評価・検討

①課題	地方分権の進捗に伴い、議会活動の透明性の確保と内容の周知と併せて、新たな政策提案が求められている。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	より効率的かつ効果的な議会運営の実現に向け、引き続き改善等の検討を行うため。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成29年度の計画	平成29年度事業費の状況(単位:千円)					
	計画事業費	予算額		決算額		
②計画に対する事業実績	0	当初		0	H28からの繰越	
		H28→29繰越				
③達成状況		補正			現年分	
④未完了・非着手の理由		流用・充当				
		平成30年度への繰越額(単位:千円)				